

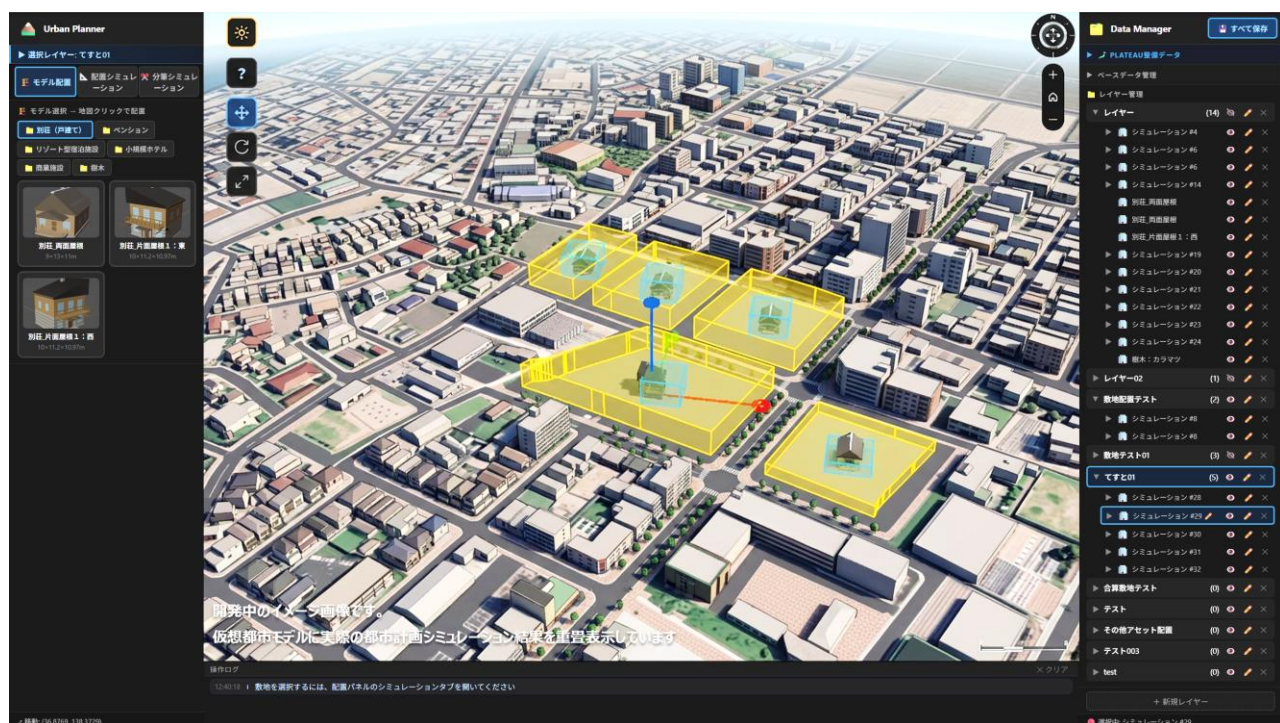
PLATEAUデータを活用した 都市計画ソリューション

PLATEAU（プラトー）とは？

国土交通省が様々なプレイヤーと連携して推進する、日本全国の都市デジタルツイン実現プロジェクトです。3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を進めることで、まちづくりDXを実現し、オープン・イノベーション創出を目的としています。

整備された3Dデータを活用した「都市計画ソリューション」は、都市計画業務における建築計画レベルでの実務的な検討や対話を支援するソリューションです。

都市計画の合意形成プロセスを強化



導入メリット

都市計画業務の効率化・3Dデータによる可視化・シミュレーション機能で業務を効率化

まちづくりを自由自在に何 度でも！

2D図面が多用され関係者間の合意形成に時間を要している業務において、3Dデータによる可視化やシミュレーションを何度でも自由に再現でき、合意形成プロセスを効率化できます。

- ✓ 3Dデータによる可視化
- ✓ シミュレーション再現

都市計画業務支援ソリュー ション！

都市計画の多岐に渡る業務にて、開発前段階における土地利用や建築ボリューム、街並みイメージ等を事前確認できます。自治体独自の建築協約などへの対応も可能です。

- ✓ 土地利用確認
- ✓ 建築ボリューム確認

拡張性豊かなエコシステ ム！

Re:Earth（Web GIS）を活用したソリューションにより、様々なオープンデータや機能の実装が可能です。都市計画業務のみならず、防災や観光など自治体の課題に応えるDXツールとして活用いただけます。

- ✓ オープンデータ活用
- ✓ 多機能実装

🏠 シミュレーション機能一覧



建屋モデル配置

地図クリックで3Dモデルを即座に配置・変形ツール：回転/移動/リサイズ

📍 地図クリック配置
即座に3Dモデル配置

✚ 変形ツール
回転/移動/リサイズ



分筆シミュレーション

接道、最低敷地面積を自動判定

🔍 自動判定
接道・敷地面積



建築計画ボリューム検証

用途地域設定・最大建築可能面積・最低敷地面積を即算出・判定

📊 即算出
建築可能面積

✅ 判定
敷地面積確認



景観確認シミュレーション

街並みとの調和を3Dで直感的に共有・建築計画レベルでの検討や対話を支援

🖥️ 3D可視化
街並み調和確認

👥 対話支援
建築計画検討

📌 シミュレーション機能の特徴

- **建築基準法対応**：建蔽率・容積率・高さ制限などの用途地域設定に対応
- **3D可視化**：リアルタイムでの3Dモデル操作と確認
- **自治体独自規制**：建築協約などの独自設定にも対応可能
- **合意形成支援**：関係者間の理解促進と合意形成を支援

□都市空間情報デジタル基盤構築支援事業

全国の地方公共団体における3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するための補助制度（令和4年度創設）

■ 補助対象事業

- (1) 3D都市モデルの整備に関する事業
- (2) 3D都市モデルの活用に関する事業
- (3) 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化推進事業

■ 補助対象団体

都道府県、市区町村等の地方公共団体
※広域連合、一部事務組合を含む（R7年度拡充）

通常タイプ

補助率 1/2（上限なし）

補助要件

- ✓ ユースケースがあること
- ✓ 国が定める標準仕様書及び標準作業手順書に基づく国際標準規格であるCityGML形式でデータを作成すること
- ✓ 整備した3D都市モデルをG空間情報センター等にてオープンデータ化すること
- ✓ 整備した3D都市モデルを維持管理・更新すること

早期実装タイプ

補助率 10/10

（上限1,000万円までの定額補助）

※1,000万円を超える事業費は地方負担となる

補助要件

- ✓ 通常タイプの要件を満たすこと
- ✓ 事業計画の初年度の事業に限る
※以降は通常タイプでの採択となる
- ✓ 早期に課題解決や新たな価値創造が図られること
（当該年度の事業において3D都市モデルの活用を達成すること）

引用：都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の概要（国土交通省）